外科手術によって植え込まれた生体弁機能不全に対する経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI）が当院で施術可能となりました

大動脈弁狭窄症や大動脈弁閉鎖不全症の治療のために外科手術で植え込まれた生体弁の耐久性は10〜20年とされており、石灰化や摩耗により劣化していきます。生体弁が劣化することで狭窄（弁が開きづらくなり、血液が通りにくくなる）や閉鎖不全（弁が完全に閉じなくなり、血液が逆流してしまう）を起こしてしまうことを「生体弁機能不全」といい、息切れや胸の痛み、むくみ、意識消失の原因となります。

「生体弁機能不全」を起こした場合、これまでは、再度開胸手術（胸を開く手術）を行い生体弁を再度植え込む方法しか治療法がありませんでした。しかし、ご高齢の患者様や他の病気を併せ持っている患者様にとって、二度目の開胸手術は非常にリスクが高く、負担の大きい治療になります。

そのような患者様のために、より負担の少ない治療法として、『外科的生体弁機能不全に対する経カテーテル大動脈弁植え込み術』が開発され、2018年7月から、治療経験の豊富な施設に限り、日本でも行うことができるようになりました。

すでに植え込まれている生体弁の中にカテーテルを用いて新しい生体弁を植え込むことで、開胸をせずに、弁機能を改善することが可能です。現在、北海道では当院のみが施設認定を受け、治療することが可能です。以前に外科手術によって大動脈弁に生体弁を植え込まれた患者様でお困りの方がおりましたら、どんなご相談でも構いませんのでご連絡いただけたら幸いです。

連絡先

弁膜症コールセンター　090-5987-5479　（24時間対応）

（※回線混雑時は当院地域連携室011-722-1117あるいは代表011-722-1110で対応可能です）

〒065-0033 札幌市東区北33条東14丁目3番1号　医療法人徳洲会　札幌東徳洲会病院

山﨑和正（循環器内科医長）、山崎誠治（副院長・循環器内科部長）